「新年、おめでとう」　2026 年 01 月 01 日

〈新年、おめでとうございます。この年のあなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福がありますようにお祈りいたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

「この方においては、『然り』だけが実現したのです。(コリントの信徒への手紙 二 1 章 19 節 b)」

昨年の 8 月 15 日、体調を壊し、病院に行ったところ、病気再発、即、入院し、抗がん剤治療が始まりました。抗がん剤治療はきついこともありますが、今年の 1 月には終わりそうです。力ある者が弱い者を威圧する現実を見せられますが、主イエスの十字架の死によって、全ての人に「然り」という「是認」が宣言されている福音を見つめ、希望に生きたいと思います。(隆雄)　夫の看病に振り回されましたが、早朝の気持ち良い散歩、バルコニーの木、花に水をやりながら、会話を楽しみました。置かれた所で、誠実に応答してくれる木、花の命の躍動に本当に励まされます。今年は、病気を乗り越えた夫と、のんびり温泉にでも行けることを期待しています。(悦子)〉

私たちの今年の年賀状である。体調を壊し、近くの病院に行ったところ、悪性リンパ腫の再発ということで、即、入院になった。リンパ腫の再発は治療が困難だと聞いていた。医師も、余命 1 年くらい、死に備えた緩和ケアもできると言われた。私は、それを受け入れ、延命治療などはしないと心肺蘇生処置に関する確認書に署名した。ところが、リンパ腫は、前回とは違う種類で、抗がん剤が効いているらしい。抗がん剤治療は辛いこともあるが、6 クールの内、5 クールまで進み、医者は、順調に回復していると言う。今年の初めには「快癒」も見込めるかも知れない。小林一茶は 57 歳の時、「めでたさも中くらいなりおらが春」と正月の気分を詠んだという。もうすぐ 85 歳になる私の春は、一茶の中くらいより、少し上にいっているだろう。

市民運動はしばらく休んでいたが、参加できるようになるだろう。私の支えと喜びは、パウロの「この方（主イエス）においては、『然り』だけが実現したのです」という言葉である。人間の命がいとも容易く殺される状況、また、権力者たちの戦争による無慈悲な殺害を見せられ、言いようのない憤りを覚える。安倍元首相が凶弾に倒れた時、国民は不法な暴力に激怒した。当然である。人の言葉や行動を暴力で抑え込む行為は断じて承認できない。そうならば、ロシアやイスラエルは軍事力をもって何万、何十万という人を殺害している。これに対する異議、反対、抗議の声は余りに小さい。主イエスは十字架で死んで、全ての人に「然り」と、その人の命を是認してくださった。私は私として生きて良い、あなたはあなたとして生きよという福音は全ての人に与えられた神からの「生の絶対的是認宣言」である。これを信じる者は、意見を異にする人を抹殺すること、まして、軍事力を用いての大量な虐殺などは、決して認められない。小さな声しか出せないが、あきらめずに、命の尊厳、共に生きる平和を求めて、志を同じくする方々と一緒に市民運動に参加していきたい。また、健康を許されるならば、隠退牧師の「ホームページ」を私の「信仰告白」、福音に生かされている証しとして、続けていきたいと願っている。

妻は、私の病気看病に体と時間を惜しまず、支えてくれている。また、私の姉がホームに入居しているが、東京まで高速と都内道路を車で連れて行ってくれる。冷静な安全運転に敬服している。妻は草木を愛し、心を込めて育てている。冬でも、大輪のバラが咲いている。また、友だちを大事にし、関係を深め、電話とスマホは必需品である。妻の健康に感謝している。子どもの頃は虚弱児だったそうだが、今は、健康優良児のようである。年を重ねると、失うものもばかりだが、見えないものが見えてくる覚醒もある。